

## 平成25年度第2回青森市健康福祉審議会地域保健専門分科会 会議概要

日 時：平成26年1月29日（水） 午後1時00分～2時30分

場 所：青森市保健所（元気プラザ） 1階会議室

出席委員：北谷安晴委員、嶋中繁樹委員、成田祥耕委員、堀内芳男委員、  
三浦祐一委員、村松 薫委員、山田弘治委員、  
（臨時委員）近藤 文俊委員、山谷 詠子委員 《計9名》

欠席委員：なし

事務局：健康福祉部青森市保健所長 野村由美子、  
健康福祉部理事青森市保健所副所長事務取扱 今村貴宏、  
保健予防課長 佐々木祐子、健康づくり推進課長 里村誠司、  
浪岡事務所健康福祉課長 山口朋子、  
健康づくり推進課副参事兼健康支援室長 浦田浩美、  
保健予防課主幹 八木橋卓也、  
健康づくり推進課主幹 倉光浩一、小形麻理、樋口正美、鈴木久美子、  
同課主査 種市靖子 《計12名》

### 会議次第

- 1 開会
- 2 所長あいさつ
- 3 臨時職員の紹介  
臨時委員 近藤 文俊（青森県健康・体力づくり協会 理事長）  
臨時委員 山谷 詠子（青森市食生活改善推進委員会 会長）
- 4 案件  
（仮称）青森市健康増進計画（素案）策定について
- 5 閉会

### 議事要旨

#### 案件 （仮称）青森市健康増進計画（素案）策定について

- ・資料1 青森市の健康の現状と課題について

事務局から、市民の健康の現状と課題について、資料1のとおり説明があった。

## 質疑応答、意見

- (委員) 特定健康診査を受診されている方々の中でも、高血圧、糖尿病、高脂血症などで治療を受けている方々が、あまり良い結果ではないという実態は重要なことであり、これらの病気の重症化を何とかして止めていくよう、一緒に頑張っていきたい。
- (委員) 医師会では、がん検診を個別検診で受けた方々のデータは全部管理しているので、精密検査が必要な方々には精密検査を受けていただくということを極めて精力的に行っており、精検率も高い。肺がん検診は、個別検診とはなっていないため、各医療機関において、それぞれ実施している現状にある。  
異常を指摘された場合、精密検査をちゃんと受けているかどうか重要であるが、そのデータは管理されているか。精密検査を確実に受けていただく仕組みこそ、重症化予防に向け重要なことであると思うので、ぜひ検討していただきたい。
- (委員) 青森県総合健診センターでは、いろいろなところを含め、市からも委託を受けてがんの集団検診を行っている。要精検と判定された方がどの程度精密健康診査を受けているかのデータは把握しているものの、全体のデータではない。全体的に、精密検査の受診率が低いという実態はある程度把握しているので、個別に受診勧奨していただくよう、各市町村にもお願いしている。  
青森市の肺がん検診の受診率は非常に低く、がんによる死亡の第1位ということもあるので、この辺の対応・対策について、これから重点的に考えていく必要があると感じている。
- (委員) 資料1の8ページ、9ページで、青森市は、全国の平均と比較し、ほとんどの死因が高い状況となっている。例えば、弘前市、八戸市ではどういう状況か把握しているか。
- (事務局) 県では、40市町村すべての標準化死亡比を算出し、各市町村に活かしていただきたいとしており、当市でも、弘前市、八戸市との比較もしている。その中でも、腎不全における死亡率は、男女とも青森市が際立って高く、男性であれば、糖尿病、心疾患、脳血管疾患による死亡率が3市に比較して高いという特徴がある。
- (委員) 服薬治療をしている方の特定健康診査の結果のデータがあまりよくないということがあったが、他の市と比べてのデータはあるのか。
- (事務局) 市の平成23年度の1年間の特定健康診査を受けた方々の検査データを、健康づくり推進課において抽出しまとめてみた結果、このような傾向が見られるということであり、他市との比較はしていない。
- (委員) このデータは、市内医療機関や元気プラザを通じた健診等、すべてのデータを集めた1年間の結果ということか。

(事務局) 平成 23 年度の青森市の国保被保険者の特定健康診査受診者の検査データについて、  
血圧の判定値はどうだったか等、横断的に見た結果ということである。

## **資料 2 がん検診に関するアンケート調査結果について**

事務局から、がん検診に関するアンケート調査結果について、資料 2 のとおり説明があった。

### **質疑応答、意見**

(委員) 資料 6 頁の⑥に関して、現実的な意見が出ており、その対応として 7 ページの (5) の課題のようにまとめていると思う。やはり、乳がんや子宮がんについては女性の医師のほうがかかりやすいという率直な意見も聞かれるので、この点や、経費の負担、休日の健診など、一つずつ実現できるような配慮があればよいと思う。

(委員) がん検診のアンケート調査の自由記載の中では、人間ドックや再検査を含め、費用を安くしてほしいという意見が 12 件ある。また、年齢制限を無くしてほしいという意見、子宮がん検診に関しては、偶数年齢だけでなく毎年受けたい等々ある。対象年齢等は、科学的な根拠によるものだとも思うが、これらの意見についていかがか。

(事務局) 年齢制限と偶数年での受診ということについては、市では、全て、国の「がん検診実施のための指針」に基づき、対象者を設定している。

(委員) がん検診の費用のことと、無料クーポン券について、どういう形で使われているのか教えてほしい。

(事務局) 5 つのがん検診があり、肺がん検診はすべて無料、国民健康保険以外の方では、胃がん検診は千円、大腸がん検診は五百円、乳がんについては千四百円、子宮がんについては千円となっている。国民健康保険の方へは補助があり、胃がんは五百円に、大腸がんは無料、乳がんは千円、子宮がんは五百円になる。その他、子宮頸がん・乳がん・大腸がん検診については、特定の年齢に達したかたへ、無料クーポン券を送付している。

## **(仮称) 青森市健康増進計画の基本方向について**

事務局から、(仮称)青森市健康増進計画の基本方向について資料 3 のとおり説明があった。

### **質疑応答、意見**

(委員) 資料 3 - ③の、身体活動・運動のところ、②運動に取り組める環境の整備ということで、例えば、冬場でも歩きやすい道路をつくるか、具体的な案を考えているのか。

(事務局) 現段階で具体的にこれをしていくということを考えているものではないが、市民意識調査においても、身近な所で運動できる「場」を求めていること、また、市民の4人に1人は運動もしていないし、体も動かしていないという実態や肥満であるという実態があること等を考えると、ハード面ということのみならず、声を掛け合える関係や仲間づくりといったことも、ひとつの環境であると思う。具体的には、1月から実施している健康づくりサポーターの育成ということがある。他に、このような視点が必要というご意見があれば、ぜひご提案いただきたい。

(委員) ハード面については不足しているのか不足していないのか確認はできないが、市内には運動施設はけっこうあるが、健康づくりとスポーツにおいて隔たりがあると感じている。スポーツ以外に、健康づくりとして、気軽にからだを動かす機会や、あるいは志を持った場合に、気軽に使えるような施設が圧倒的に少ないので、うまく活用できるところがあればよいと思う。

(事務局) 運動に取り組める環境の整備を方向性としているが、現実的にはスポーツの部分は所管部局は教育委員会が担い、保健・健康の部分では健康福祉部が担っており、既存の施設、既存事業においても、運動・健康とスポーツがうまく連携していくことができるようにしていきたい。

(委員) 先ほどのアンケートにも関連するが、資料の中に、「健(検)診の充実」とあり、1番に「検診受診率の向上対策の推進」とあるが、検診料金を下げるなどの対策について考えていただけるものか。

(事務局) 経費の部分については様々な財政環境があり、行政がどこまで関与するかという線引きが必要になる。基本的には、現状の検診の質を落とさず、どうやって受診者数を増やしていけるかの工夫が、この計画の中でも出せればと考えている。

(委員) 現実的には検診料の負担が重いという方もいる。市民の意見も考慮するようお願いする。

(事務局) はい。

(委員) 社会生活を営むために必要な心身の機能の維持・向上のところでは、こころの健康づくりなどでは、専門的な方の関わりがないと、話が進んでいかないのではないかとと思う。専門家の方の指導体制なども掲げられ、そこに肉付けをしていくというようなことが必要なのかなと思う。

(事務局) こころの健康づくりに関して、専門的な方によるケアの体制も必要であるというご意見として、肉付けをしていく際に、ぜひ考慮させていただく。

(委員) 青森市健康増進計画は平成 26 年度から 7 年間であるが、7 年後ではどう変わっていくのかの数値目標を考えていくのか。また予算的な方向では、なんらかの手立てを考えているのか。

(事務局) 将来的に成果なり目標を持つという部分については、青森市新総合計画の中の健康づくりの充実という大きな施策の中で、既に市民に示している目標値があるので、この「(仮称) 青森市健康増進計画」をうまく機能させることによって、大きくは、この青森市新総合計画の目標値に反映させていきたい。予算については、(仮称) 青森市健康増進計画は、今年の 6 月を目途に策定ということで、まだ計画ができていない段階であることから、具体的な予算は盛り込んでいない。

一方で、昨年 11 月に、健康アップ宣言を行い、今後、健康づくりサポーターを育成していくという、ヘルスリテラシーの向上にも関連する業務については、25 年度 12 月の補正予算となっている。平成 26 年度を見据えた予算については、現在、査定という段階にある。(仮称) 青森市健康増進計画ができ、これを具現化するものとなれば、早ければ、来年 9 月または 12 月補正も考えられ、平成 27 年度予算には反映させていきたい。

(委員) 平均寿命は、平成 27 年度に調査され、平成 30 年に公表されるということになる。平均寿命の全国順位ワースト 4 という非常に不名誉な地位から抜け出すためには、即効性のある施策やスピード感のあることも施策の中に盛り込んでいくことが必要である。

(事務局) 即効性のある施策というのは難しいと思うが、一番問題となるところは、ヘルスリテラシーの問題、40 代 50 代の生活習慣病予防への介入、がん検診の受診率向上対策などであり、そこを押さえる方向性をつけていきたい。難しい問題がたくさんあるので、皆様方からもご意見ご協力をいただいで取り組んでいきたい。

(委員) 「ヘルスリテラシー」という言葉は、弘前大学の中路先生が述べている言葉であると思うが、県関連の検討の場でも、このヘルスリテラシーという言葉は、わかりづらいということが話し合われた。しかし、むしろ、浸透していないからこそ、ヘルスリテラシーを理解してもらうことが大切であるとなったので、市民の方にもわかるようにどんどんアピールし、理解してもらうようにしていければと思う。

(委員) 市民は、もっと現実的なことを求めているので、例えば、がん検診を受けた場合と受けない場合の発症率や治癒率、がん検診を受けたらこれくらいは生きる、状態が悪くなってから受診した場合は、これくらいの治癒率しか無いなど、現実的な数値を出した方が市民には伝わると思うので、その辺も考えていただきたい。

## 5 今後のスケジュールについて

事務局から、(仮称)青森市健康増進計画策定の今後のスケジュールについて、追加資料のと

おり説明があった。

## 6 閉会